

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

よりコロナ禍の中で、行政の果たす役割の重要性が顕在化したと思っております。そしてそれが、やはりさらにスピードを持ってやらなくてはいけない。そしてさらに新たなこの機会、チャンスと言えればいいのでしょうか、そういったことも少し具体化・具現化されておるところも見えてきたと。今までは見えなかった部分が、よりそれを狭めて、そして集中的にやらなくちゃいけないのではないかなと思っております。それは、各都市の課題であるわけでございまして、人口減少であったり、そしてまた、新型コロナウイルス感染症の発生と拡大によりまして地域医療の重要性、そして人口減少によって、さらに厳しい環境にあったものが、これによってさらにより厳しくなっておるといような、非常に待たなしでやらなくてはいけない問題というのは非常に大きくなつたと思っております。そういった問題をやはり抱えながら、ただ単に目先だけではなくて、将来にもつなげるようなものにしていかなくてはいけないだろうと思っております。ワクチンや薬ができない、この新型コロナウイルス感染症に対しましては、そういったところがまず最重要課題で取り組まなくてはならないだろうと思っております。そのようなことで、非常に新たな一つのターニングポイントになってるのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

担当入替えのため、11時25分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時16分 休憩〉

〈午前11時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の質問をさせていただきます。

温室効果ガス削減と異常気象対策について。

菅総理は、主要20か国地域首脳会議で、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする、こういった決意を表明しました。11月19日と11月20日には、衆議院と参議院で、気候非常事態宣言が可決されました。日本中で取り組んで世界をリードしてほしいと思いますが、以下伺います。

- (1) 2050年の天気予報が発表されて6年、衝撃的で過酷な予報が、前倒しで実証されつつあるように思えますが、いかがですか。
- (2) オランダでは、市民866人が政府に対して起こした、気候変動から国民の生存権を守れ、こういう裁判で、昨年暮れに最高裁で原告が勝訴しました。その結果、アムステルダム市では、2030年までにガソリン車やディーゼル車の走行を禁止することを議会で決議したと聞いています。ヨーロッパのこの流れに対して、日本は危機感が足りないと思いますが、いかがですか。
- (3) 糸魚川市はフェーン現象の影響を受けやすい地域ですが、今後の気候変動の影響をどのように想定し、対策を考えているか伺います。
- (4) 糸魚川市の温室効果ガス排出量の現状、削減対策の現状と今後の計画について伺います。
- (5) 電気自動車、再生可能エネルギー、蓄電池の普及について伺います。
- (6) 気温上昇や海水温上昇による農漁業への影響と対策については、どのように考えているか伺います。
- (7) この問題の先送りは将来の世代の生存権を脅かすことになります。国や企業や政治家任せでは手遅れになります。市は、市民への周知から始めて、国を引っ張るような意気込みで臨んでほしいと思いますがいかがですか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

佐藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、様々な説がありますが、温暖化の影響もあると感じております。

2点目につきましては、国でも国内の温暖化ガスの排出を2050年までに実質ゼロとする方針を表明いたしておりまして、今後も危機感を持って対応していくものと考えております。

3点目につきましては、気温が上昇することによる健康や農林水産物に対する影響が考えられ、国、県などと連携を取りながら対策について検討を進めてまいります。

4点目につきましては、市で排出される温室効果ガスは減少傾向であり、引き続き地球温暖化対策実行計画に基づき、二酸化炭素排出抑制を図ってまいります。

5点目につきましては、市民周知を行い、普及促進を図ってまいります。

6点目につきましては、農作物の品質低下につながることから、農家にはフェーン予測や被害防止の情報提供に引き続き取り組んでまいります。

また、漁業においては捕れる魚の種類や時期が変わるなど、魚価の低下に懸念されることから、

鮮度保持や加工事業などの高付加価値化について、今後も漁業関係者と連携してまいります。

7点目につきましては、重要な課題と捉えており、国・県の動向を見ながら進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

それでは、気候変動の状況を紹介しながら2回目の質問をさせていただきます。

2014年に報道された2050年の天気予報は、国立環境研究所の気象学者、江守正多さんとNHKによるものでした。その後、実際の気象状況ですが、2018年の台風21号の高波では、関西空港の連絡橋にタンカーが衝突したのをはじめ、多くの船舶がいかりを下ろしたまま流されました。今までの常識は通用しなくなったようであります。

2019年の台風15号のときには千葉県で鉄塔が倒壊するなど、2014年に報道された2050年の天気予報の動画の状態が、連日の台風災害としてテレビで報道されました。

昨年7月、イギリスのBBC英国放送協会が、気候変動を人類が生存可能なレベルに抑えることができるかどうかは2020年末までの18カ月にかかっている。こういう報道をしたそうあります。ヨーロッパでは、フランスやドイツは、本来クーラーが不要な、どちらかという寒い国だそうですが、去年、気温が摂氏42度とか46度まで上がったそうです。海拔ゼロメートルの国、オランダをはじめヨーロッパの各国で温暖化と気候変動が大問題になってると言われております。

オーストラリアでは、昨年暮れ、気温の上昇でユーカリの木、恐らく葉っぱだと思いますが、これが自然発火して、全土で森林火災が広がって、周囲の海水温も2度ほど上がったそうあります。その後、豪雨と土砂流出に見舞われて、多くの生き物が生存の危機にさらされていると聞いております。

日本では、今年、新年早々から新型コロナの話題が大きくて、昨年の台風で避難したことも、長野で新幹線車両が水没したことも過去の出来事のように影が薄くなっております。

パリ協定から離脱したアメリカですが、大統領選挙の結果、パリ協定への復帰が濃厚となっております。アメリカは、CO₂排出量では、排出総量で中国に次ぐ、世界第2位の国であります。

日本は昨年、COP25、第25回気候変動枠組条約締結国会議で、化石燃料による発電にこだわる国として、化石賞を贈られています。今年、菅総理が2050年までに温室効果ガスの排出量について、実質ゼロを決意したことについては、日本の気象災害の激甚化とアメリカのパリ協定への復帰が、方向転換のきっかけでもあったと思いますが、CO₂排出量世界第2位と第5位の国が方針転換して、温室効果ガスの削減に本気で取り組むことになれば、世界を大いに励ますこととなります。BBCのいう気候変動へのタイムリミット、2020年末までに、日本もアメリカもようやく滑り込む形になってうれしい限りであります。

また、排出総量で断トツ世界1位の中国は、1人当たり排出量はアメリカの約半分程度ですが、2060年までに実質ゼロを表明しております。中国、アメリカ、日本の3か国の現在のCO₂排出量合計は、全世界の排出量の46%にもなっています。

ティッピング・ポイントという言葉があります。小さな変化が蓄積された結果、ある時点で劇的な変化を起こし、元には戻れなくなる転換点のことだそうであります。ししおどしの竹筒の水受け部分に少しずつ水がたまり、限界点を超えると支点を中心に回転し、一気に水を排出するときのあんな限界点のイメージだと思います。気候の僅かな変化が積み重なり、ティッピング・ポイントを超えると、劇的な変化が起こり、元には戻れなくなると、さらに他の温暖化危険要素をティッピング・ポイントに追い込むという予想不可能な事象が起きる可能性があると言われていています。地球環境の変化に順応するという対策も必要かもしれませんが、その地球環境の変化が、人類によって造られたものとするならば、ティッピング・ポイントを迎えないように環境変化を抑えることこそが、第一になすべきことだと思います。

こういう中で、日本も昨年9月、長崎県壱岐市から始まった気候非常事態宣言が全国に広がりました。今年の11月19日と11月20日には、衆議院と参議院で、この気象異常事態宣言が可決されたわけであります。子供たちや孫たちや、その先の世代に生存できる地球環境を残すことは、今を生きている私たちの使命であります。経済第一、お金第一のために、私たちの後の世代の生存環境を犠牲にするわけにはいきません。外国任せや国任せにして、大丈夫とはとても思えません。あらゆる場所でCO₂削減と異常気象対策に取り組んで、生存できる地球環境を守ることを焦眉の課題として力を入れなければならないと思います。こういう思いを持って、2回目の質問に入ります。

2014年に2050年の天気予報が出されました。2011年の東日本大震災の驚きが、まだ冷めやらない時期でありまして、福島県の状況や放射線量が気になっていましたが、温暖化や気候変動については、私はあまり気にしていなかったように思います。

環境生活課長に伺いますが、2014年当時に、この2050年の天気予報について注目されましたでしょうか。また、どう感じましたでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

2050年の天気予報、当時、私、環境係長でございまして、非常に関心を持って見させていただきました。当時は少し誇張した内容でないかというような思いもあったんですが、近年の猛暑が続くことですか、台風被害の甚大化などを見ますと、様々な説があるにしても地球温暖化は確実に進んでるといふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私も実は、当時はそんなような状況で、この8月、9月にこの天気予報を初めて見まして、これは本当に現実になってきてるなと思ったわけであります。

2017年の7月1日の豪雨のときに、能生川の堤防が被災して、そのときに2011年の東日

本大震災での津波で家や車が流される情景が頭をかすめたものでありました。その後、あちこちの台風災害で、家や車が流される映像が珍しくない状況になってきております。今年は、9月議会でもちょっと話しましたが、私の住む下小見地域では、ヒグラシの声が全く聞こえなかった。私の耳には聞こえなかったのであります。この話を友人にちょっとしましたところ、溝尾地域でも結構、小見と溝尾では標高違うんですが、溝尾地域でもヒグラシの声どころか、アブラゼミも少なかった。こう言っておりました。

先日、11月19日ですが、いいお天気が続いたときの後ですが、旧糸魚川市内で市道の舗装と擁壁の隙間からアサガオのつるが出ていて、紫色の花が咲いておりました。自分のうちへ入ってみますと、サザンカの花とムラサキツユクサが同時に咲いておりました。これはいろんな変化が身近に起きてるんだなと思いましたが、動植物の変化が本当に気になってるわけなんです、こういう自然環境の変化を感じておりませんか。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

昆虫ですとか野生動物の出没ですか、時期の変化が生じていることも承知しておりますし、生息している動植物の北上化というのも見られているかと思えます。議員おっしゃいますように、トンボがいない年もありますし、蚊もいない年というの最近あります。そういった自然環境の変化は日々、実感しているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

こういった温暖化の結果、過去になかったような極端な豪雨や強風が起きて、結果的に今までの常識による避難対策とか防災工事では、市民の安心・安全を守れなくなってしまった。こういうように私には思えるんですが、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

地球温暖化に対する考え方としましては、地球温暖化そのものを遅らせるという地球温暖化対策という面と、自然環境の変化に少しでも適応していくことでの地球環境適応策という必要があると思えます。そういった今ほど議員おっしゃったような、避難ですとか自然災害への対策につきましては、適応策として適応していく必要があるものというふう感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

特に終戦後であります、工業の発展とともに化石燃料による発電が増加し、CO₂排出量が増え、温暖化が進んだと思います。影響を受けるのは、自然環境に依存した1次産業である農業、漁業等であります。海抜の低い島国は、海面上昇と異常気象により、海に沈む危険にもさらされています。被害者と加害者という関係が出てくる心配がありますが、そこら辺についてはいかが考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

新潟県気候変動適応に関する研究会の報告の中で、温暖化で大きな影響が出るのは、農林水産業や災害への影響だというふうに提言をされています。

また、議員おっしゃいますような島国への影響というのも出てくるかというふうに思っております。そういった特定の方に地球温暖化の影響が強くなるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

温暖化による海面上昇によって、世界で最も被害を受ける第一番は、大きな国としてですけどもフィリピンだそうです。その次が日本だそうです。

気候正義という言葉が、最近聞くんですが、その言葉をご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

気候正義につきましては、これまで多くの化石燃料を使ってきた先進国の課題であったものが、発展の現在途上している国に対して大きな影響を与えるということを是正しなくてはいけないというような内容かと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そのとおりでありまして、気候正義とは、経済先進国や富裕層の持続可能でない行為が、多大な環境負荷をかけているにもかかわらず、そのしわ寄せが、開発途上国に住む人々や経済弱者、若者や将来の人類に及ぶ現状にある。これを是正すべきだ。こういう考え方が気候正義であります。

それでは、最近話題になっています未来のための金曜日、こういう行動をご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

未来のための金曜日につきましては、話題となっています高校生活動家のグretaさんが起こした活動でありまして、世界的にも影響を受けているというふうなものだと承知しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

スウェーデンのグreta・トゥーンベリさんが始めたこの行動なのですが、これは世界中に広がっていきまして、昨年9月20日の金曜日には、若者を中心に日本を含む150の国で数百万人が参加して、集会や行進が行われております。日本では、東京、大阪でも行われております。

しかしながら、あまりメディアでは、あまりしっかり報道されておられません。今年は、コロナ禍で自粛ムードであったようですが、今年も9月に行われ、あるヨーロッパの都市では、コロナ禍にもかかわらず6,000人も若者が参加して、集会が行われたと報道されております。若い世代にとっては、コロナも怖いですが、未来のための金曜日の行動は、コロナに負けてはいられない。そういった活動になっているようでありまして。大人たちが、私たちの声を無視するなら、私たちは子供をつくらない、つくれないと、こう言っているようでありまして。

気候変化への適応、順応できる動植物が生息権を広げ、適応困難な動植物が絶滅の道をたどることは、自然の摂理であると思っております。近年のような急激な気候の変化は、人類の生存の危機であると、日本を代表する気象学者である国立環境研究所の江守博士も警告しております。

私たち個人に何ができるか、自治体や企業や政治に何ができるか、こういったことを市民も自治体も知識を得て、より早く取り組む必要があると思っておりますが、この点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

まず、自分たちができることをやるべきだというふうに思っておりますので、そういった、まずできることから早めに取り組んでいくという姿勢が大切かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

この12月4日の新聞ですが、経済産業省が2030年代半ばにガソリン車の新車販売をなくし、電動車にする目標を掲げる方向で調整している。こういった報道がありました。世界の流れに呼応

したもので、私としては歓迎いたします。

ただ、急速充電スタンドが、これから非常に必要になってきますが、糸魚川市内の状況をどう把握いたしておりますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

市内の電気自動車への充電器でございますが、普通充電器を含め、12か所14台の充電器があります。そのうち4台が、急速充電器となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

急速充電器は30分でバッテリーの8割方が充電できるんですが、一般の200ボルトの充電器は、本当に一晩かかって100%になる。そういう仕組みであります。これ実際には、一般家庭ではそれでいいんですけども、急速充電器でないとなかなか突然バッテリーがなくなったからどこかで充電しようと思っても、充電できるような状態ではないんです。私、富山や長野やなんか、結構小さい村やなんかでも急速充電器ついてるんですが、近隣自治体の庁舎での急速充電スタンドの設置状況は分かっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

上越市、妙高市におきましては、庁用車で電気自動車を持っておられますので、そういったものへの充電設備は持っておられますが、一般の方が使えるような充電器につきましては、所有していないものというふうに承知しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

庁舎にあるやつは、恐らく200ボルトの一晩かかる充電器ではないかと思うんです。ところが、長野へ行くと小谷村も白馬村も急速充電器しっかりついているんですね。富山もこないだ黒部病院行ってきましたが、黒部病院にもありましたし、病院じゃないや、黒部の市役所です。結構、市町村の庁舎に急速充電器がつけてあるところが増えております。ぜひこれ糸魚川市でも急速充電器をつけるような方向で検討していただきたいと思いますが、どんなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

電気自動車の充電器につきましては、電気自動車の走ってる数、需要と供給のバランスというのもあるかと思しますので、今後の動向を見ながら検討させていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

国の方針が、これから具体化すると思いますし、ぜひともお願いしたいと思います。

糸魚川の再生可能エネルギー推進について、今後の取組の方向性はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

再生可能エネルギーの利用に関する方針につきましては、現在改定中の新エネルギービジョンの中で検討させていただいておりますので、それらができた段階で、またお知らせできるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

今までも小水力とか地熱発電とかいろいろ検討されているようですが、今回やはり国の方針を受けて、またしっかりと計画をお願いいたしたいと思います。

次に行きますが、CO₂の排出の大きな部分、これを石炭火力発電等の電力会社が占めると言われております。現在、糸魚川市内はほとんどが東北電力の電気を使用している世帯が多いと思います。電力自由化により電気の購入先を選べるようになったわけではありますが、先日、新聞に載った東北電力の広告にも再生エネルギー100%プラン、こういう言葉が書いてありました。CO₂削減を個人が行うことができる重要な選択じゃないかなと思ったんですが、いかが考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えします。

今ほどのお話につきましては、料金的には多少高くなりますが、個人で取り組める貴重な選択だというふうに感じております。国もこういった再生可能エネルギーの利用を促進するために電気自動車の補助事業につきましては、こういった電気を使うようなことを推奨するような内容になって

いるようでございますので、こういったものの取組というのは必要なものというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

電気料金が高くなるとは、ちょっと知りませんでした。ここのところ東北電力から手紙が来まして、深夜電力の割引きを4月1日からなくすという、そういうような手紙が来たんですが、そこら辺もしっかり調べてみないと、深夜電力が今まで安いもんだから使っていて、それが深夜電力を使う価値がなくなるという可能性もありますんで、まだそこら辺の詳しい情報分かってないんですが、そこら辺もできましたら調べていただいて、市民に教えていただきたいと思います。

それで、ヨーロッパでは、国民が電力供給元として再生エネルギーを選ぶ人がどんどん増えたために、再生エネルギー発電がどんどん伸びているそうであります。スペインやポルトガルは、本当にそっちの再生可能エネルギーの発電のほうが伸びていて、普通の化石燃料発電が本当に隅に追いやられてるそうであります。市民に温暖化がいかに危険であるかを知らせたり、市民個人で何ができるか、こういったことを知らせるような形を取ってほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

市民の皆様には、まずご自身が地球温暖化を対策するということを考えていただく中で、節電ですとかガソリン使用料の削減ですとか、水道の削減ですとかそういったものに取り組んでいただくということが大切かと思っております。

また、取り組んでいただいた内容をほかの方にも広く周知していただいて、いわゆるロコミというような活動で広めていっていただくことがいいのかなというふうに思っております。なかなか広報等だけで周知することにつきましては、広がっていくことが、範囲が狭いのでロコミで広い範囲に広げていただければというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

確かに広報だと配ってもらっても、ほとんど見ないで重ねてしまってるのが多いかと思えます。何かいい方法を考えて、私も考えたいと思います。

日本経済新聞によりますと、日本の温暖化ガス削減目標は、2050年には実質ゼロなんですけど、2030年の目標は2013年度比で26%減だそうです。イギリスは2050年目標は、日本と同じで実質ゼロです。2030年度目標は1990年度比で68%減、こうなっております。恐らくこの10年間で、30年までの10年間で2050年目標の大方の部分をやってしまおうと、そ

ういう意気込みだと思えます。日本の2030年度の目標は低過ぎる。本気で取り組むつもりかどうかが疑われることになる。こう日本経済新聞に書いてありました。

一方、日本の企業ですが、温室効果ガスの排出量の多い製鉄業界、この日本製鉄ですが、製造過程で還元剤としてコークスを使用して二酸化炭素を出すんですが、それを水素に置き換えてCO₂の発生を大幅に抑える。こういった製法を目指して、2050年には会社としてCO₂排出ゼロを目指す。こういうことを発表しております。企業も自治体も市民もみんなが温暖化の危険から地球環境を守る必要性を共有して取り組まなければ、生存できる環境は守れない、そう思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

地球温暖化に対応するためには、誰かが何かをやるということではなく、企業も自治体も個人もいろんな取り組めるところから取り組んでいくということが重要な課題だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

気持ちを共有できてありがとうございました。

BBCで報道された地球環境を守るための18カ月、これは今月12月が最終月となっております。日本経済新聞の記事を見ましても日本のCO₂削減目標の2050年に実質ゼロは、2030年目標を見ますと、世界に実に怪しまれていることがうかがわれます。国の方針が固まってから取り組むやり方では、若者や子や孫たちに生存できる環境を残すことが不可能になる可能性があります。例外も付度もなしに市で取り組めることはすぐにやるのが、次の世代に対する私たちの責任であると思えますが、改めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

昨年、改定いたしました環境基本計画の中に地球温暖化対策実行計画を同僚しておりますので、それら目標に従いまして、確実な事業の推進を進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（中村 実君）

佐藤議員の発言の途中ではありますが、昼食時限のため、13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

地球環境の危機については、国もメディアも前向きに情報発信をしていないと思います。糸魚川市では、この地球環境の危機について、市民に知らせ、でき得る限りの対策を市民に発信し、若者たち、子供たちの将来を守る糸魚川市、こういうことで市内外にアピールしてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

糸魚川市としましては、いろいろな時期、いろいろな場面で地球温暖化問題について周知をさせていただくことを続けてまいりたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

よろしく申し上げます。

ところで、メタンハイドレートが日本海の海底に存在し、資源として注目されています。このメタンハイドレートは、低温・高圧の状態では個体として安定しています。海水温が上がってくると、メタンハイドレートは溶け出し、CO₂の25倍の温室効果を持つと言われるメタンが、海中から空中に放出されることとなります。そうすると温暖化が加速されて、気温の上昇を止めることが難しくなってしまう、こう言われております。この性質を指して、メタンハイドレートは温暖化の時限爆弾とも言われます。

メタンハイドレートは、永久凍土の中にも存在します。今年、シベリアで気温が摂氏38度を記録したそうですが、現在既に、永久凍土からも海底からもメタンガスが溶け出しているようであり、温暖化や気候変動のティッピング・ポイントは、私たちの目には見えません。予測も難しいようであります。ティッピング・ポイントを通過した後で、あれがティッピング・ポイントだったのかと後悔するものようでもあります。

グリーンランドや北極の氷もどんどん解けておりまして、ホッキョクグマが餌のアザラシに出会えなくなって、絶滅の危機にさらされているとも言われております。

温暖化は、またデング熱等を媒介する蚊の生息域を広げていると言われます。新たなウイルス感染症の発生も危惧されております。

小動物の生息域の変化は、大きな動物の生存を脅かし、食料危機を招き、食料をめぐった争い、戦争が起きるだろう。こうも言われております。

しばらく前、デジタルカメラがフィルム式カメラに取って代わったときには、写真屋さんにとっては悲劇的な状態だったと思いますが、写真のシステムは急激にデジタルの方向へ変わりました。日本製鉄が還元剤をCO₂を大量に排出するコークスから水素に変えること、これも革命的なシステムの変換だと思います。これを日本製鉄は発表して、それをやろうとしております。

今こそ利益追求第一を改め、生存できる環境を守ることを第一に考えるような経済のシステムを、持続可能なシステムを世界中で目指すときだと思います。若者や子孫の将来の生活環境を保全することを、私たち親世代の使命としたいものだと思います。

以上で、終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、佐藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

担当入替えのため、13時10分まで休憩いたします。

〈午後1時05分 休憩〉

〈午後1時10分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。〔11番 笠原幸江君登壇〕

○11番（笠原幸江君）

清政クラブ、笠原幸江です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1点目、木地屋の里の現状と今後について。

令和2年9月10日から全館休館とする突然の貼り紙をし、木地屋の里が冬ごもりに入っています。この木地屋の里は、集落に残された民俗資料の保存活用と地域活性化を目的とし、昭和62年に活動を始めています。木地製作用具・製品555点、漆器製作製品866点、文献40点を合わせて1,461点から構成され、重要有形民俗文化財に指定されている観点から、このまま休館す